

# 小学校5、6年 外国語科スタートに向けて

大津市立晴嵐小学校



平山 美穂 先生  
滋賀県 大津市立晴嵐小学校教諭。  
2019年4月より研究派遣で大津  
市教育センター研究員として勤務。

小学校5、6年で外国語科がスタートしました。外国語科では、外国語に関する基礎的な知識や技能を身に付けることが目標になっており、そのことを意識するあまり、指導者の説明や反復練習が増えるのではないかと心配です。さらに、今までの外国語活動は慣れ親しみを目指すため、外国語活動を経験して何ができるようになったかを児童が自覚しにくいことや、中学校外国語科への円滑な接続が進んでいないことが課題として挙がっています。

これまで私が行ってきた外国語活動では、体験を通して外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむことや、積極的にコミュニケーションを図ることによって、児童の学ぶ意

欲や聞く力、話す力を育成してきました。これらの取り組みは、外国語科になっても、継続したいと思います。外国語活動で育んできた「自分の伝えたいことを進んで言おうとする意欲」を生かし、英語での聞く力、話す力を駆使してやり取りする力を育成し、中学校での「聞くこと」「話すこと」の基礎をつくりたいと考えます。

それらを実現するために、私は、①必然性 ②自ら探求 ③意見交流の3つを1時間の授業のどの活動においても心掛けている（図1参照）。なお、この3つは独立したものではなく、相互に関連したり、同時に行われたりします。

図1 授業の流れと心掛けるポイント



次ページより、①～③を心掛けるそれぞれの取り組みについて工夫を紹介します。

## 自らめあてを見つける「導入」の工夫

英語を聞いて話の概要を捉えるには、興味・関心を持って推測しながら考え、気付いたり見通したりする力が求められます。その育成に有効な導入の工夫を紹介します。

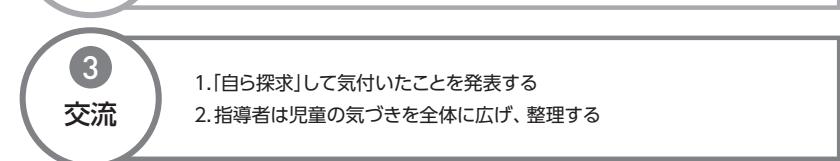
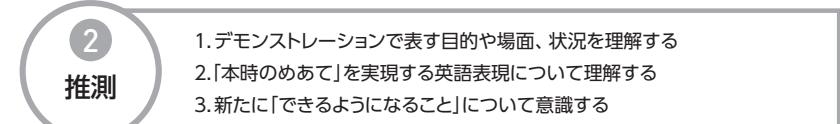
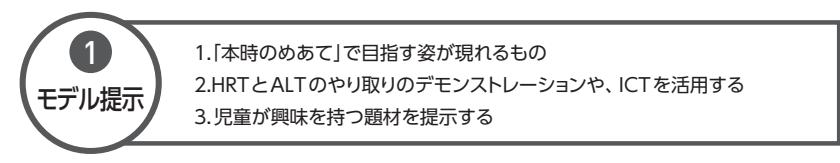
「導入」では、児童にとって身近な人々や事柄についての新しい情報を題材にし、興味を持つことができるようになります。音声ややり取りを提示したあと、必ず、目的や場面、状況および英語表現について交流するようにすると、日本語で説明しなくとも、自分の知っている言葉や場面、状況から推測し、英語表現の意味を理解して、めあてを見つけることができます。

その際、英語は繰り返し聞くうちに聞き取れるようになります。

なることや、分からない部分について恥ずかしがらずに質問することの大切さについて伝え、聞き取れない時は、「One more time, please.」と言って、「英語をもう一度聞きたい」という気持ちを表すよう促すことも大切です。聞き直すことができる安心感や、聞き取れた表現について交流するスマールステップが児童の意欲を高め、さまざまな表現を聞き取ることができます。

目的や場面、状況および英語表現に着目し、自らめあてを見つける「導入」の工夫から、推測しながら考え、気付いたり見通したりする力、そして、短い話の概要を捉える力を育むことができます。（図2参照）

図2 自らめあてを見つける「導入」の工夫



●本時のめあてが共有される

高まる力

- 聞く力
- 興味・関心を持って推測しながら考え、気付いたり見通したりできる力

図3 既習表現を活用した「帯活動」や、活発なやり取りを促す「言語活動」の工夫→

図4 気づきを促す「振り返り」の工夫→

## 既習表現を活用した「帯活動」や、活発なやり取りを促す「言語活動」の工夫

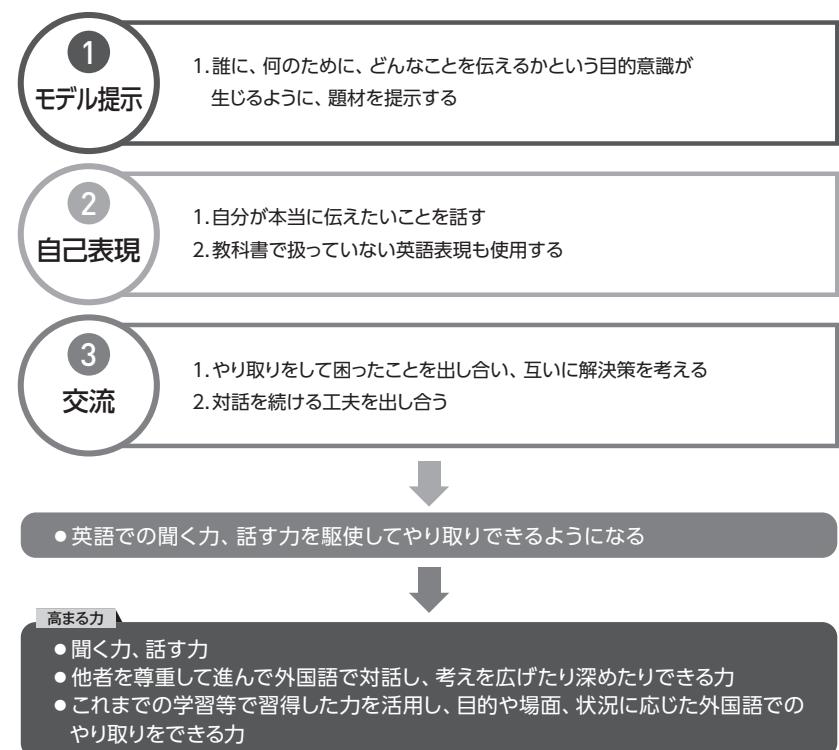
それまでの学習や経験で蓄積した力を駆使してやり取りするには、他者を尊重して進んで対話し考えを広げたり深めたりできる力や、既習事項を活用して目的や場面、状況に応じたやり取りができる力が求められます。既習表現を活用した「帯活動」や、活発なやり取りを促す「言語活動」を工夫することが大切です。

例えば、自分のおすすめの体験をALTに紹介することを単元のゴールとし、「誰に、何のために、どんなことを伝えるか」という目的意識を持つことができるようになります。また、例文通りに尋ねたり答えたりするだけでなく、既習表現を活用したやり取りができるよう、帯活動でさまざま

な話題についてのやり取りに継続的に取り組みます。

自分の伝えたいことを話すよう促すと、個別に質問して新しい語句を覚えようとしたり、自分が紹介したい体験を一生懸命話したりすることにつながります。さらに、困ったことや、やり取りを活発にする心がけについて交流すると、場面や状況に応じた英語表現の活用方法およびコミュニケーションの際に心がけるポイントについて考えることができます。それらを意識してやり取りすることで、英語での聞く力、話す力を駆使してやり取りする力を育成することができます。(図3参照)

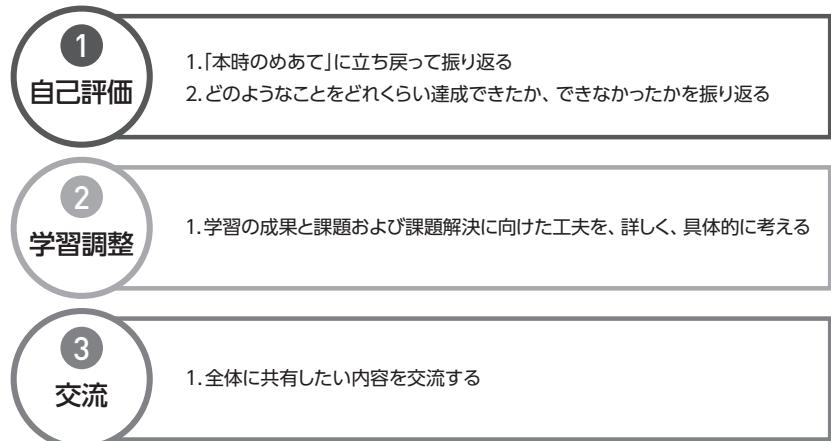
図3 既習表現を活用した「帯活動」や、活発なやり取りを促す「言語活動」の工夫



Greeting「帯活動」  
Activity「言語活動」

Reflection「振り返り」

図4 気づきを促す「振り返り」の工夫



●自分の課題を見つけてめあてを設定し、課題解決への見通しを立てることができるようになる

高まる力  
●自分の課題を見つけてめあてを設定する力  
●めあてを達成するための手立てを見通す力  
●自らの学びを振り返って次に生かす力

## 気づきを促す「振り返り」の工夫

聞く力、話す力を育むためには、外国語科の学習において、未知の英語表現に挑戦したい！英語の学習が楽しい！という思いを持って、学習を積み重ねることが大切です。「最初はできなくても、〇〇を繰り返せばできるようになる」と思える経験をし、課題解決への見通しを立てられると、学習を継続する意欲が増します。自分の課題を見つけてめあてを設定し、次に生かす力を育成したいものです。

そこで、毎時間の振り返りも工夫します。学習の成果や課題を自ら見つけ、その原因を分析し、課題解決に向けた工夫を考える方法を指導することで、めあての達成に向けた具体的な行動を見通す習慣づくりをしていきます。また、「振り返り」のなかで全体に共有したい内容を交流し、ほかの児童の新たな気づきおよび目標づくりに役立て、もっと聞こう、話そうとする積極性を育んでいきたいと考えています。(図4 参照)

小学校

実践  
報告